

小学校 5 年

シンプルプレゼンで漢字クイズ

大東市立氷野小学校

教科

国語

単元名

漢字の成り立ち

本時のねらい

・漢字の成り立ちを理解することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・学習理解を深めるために、SKYMENU Cloud のシンプルプレゼンを活用し、漢字クイズを作成する。
作成するには、1 枚のシートに文字や絵、図など必要なものだけを選択し、自分の理解だけに留まらず、他者の学習理解を深める手立てとする。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・シンプルプレゼン（SKYMENU Cloud）・気づきメモ（SKYMENU Cloud）・大型 TV

本時の展開

本時で育む主な情報活用能力

D-STEP2,E-STEP2

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (7 分)	○本時のめあてを確認する。 くふうして漢字の成り立ちクイズを作り、とき合って漢字への理解を深めることができる。 ○クイズ問題のアイデアを共有し、クイズづくりのイメージを持つ。 →会意文字、形成文字、象形文字、指示文字について	
展開 (33 分)	○シンプルプレゼンを活用してクイズ問題を作成する。 【写真 1】【写真 2】 ○クイズ問題を共有し、解き合う。【写真 3】	・シンプルプレゼンでシートを作成していく際には、自分の理解を深めることはもちろんのこと、交流相手の理解を深めることもねらいとし、その上で、レイアウト構成を工夫する、カメラやインターネットを活用する、ヒントのシートを別途作成する等、端末にあるツールを多様に活用することで情報活用能力の育成にも繋げる。
まとめ (5 分)	○ふりかえりを行う。	・気づきメモを活用し、他者のふりかえりも参照できるようにする。

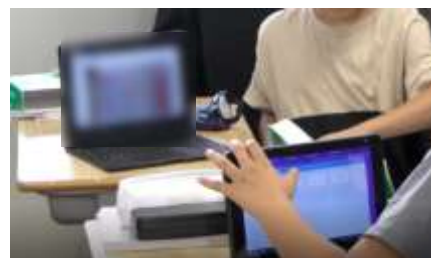
1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】漢字辞典を開いて、クイズ作成のスタート。端末画面はシンプルプレゼン。いつでもアナログからデジタルに切り替えることができる。
【林四郎・大村はま監修 月本雅幸・濱口富士雄編『三省堂 例解小学漢字辞典 第五版』（三省堂）使用】



【写真 2】端末に文字を打ち込む方法以外にも、直接辞典を写真に撮る。そんな方法も個別最適化の考え。



【写真 3】端末を直接見せながらの交流を通し、言語能力を高める。

児童生徒の反応や変容

・漢字の成り立ちの学習でおさえるべき 4 種類の文字（会意文字、形成文字、象形文字、指示文字）を単なる用語として捉えるのではなく、漢字自体が 4 つのうちのどれかの原理でできていること、未習の漢字でもその原理に当てはめて考えてみると、また違った観点で漢字自体を見ることができる等、漢字への興味関心に繋がる様子が子どもたちの活動から伺えた。特に、本時の端末上でのクイズ作成の展開は、児童の思考の整理に役立ち、他者参照のしやすさと知識を増加させるという学習の質を高めることに結びついた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・まず、子ども自身が選んだ漢字が 4 種類のどの文字であるのかを考えるツールとして漢字辞典はもとよりインターネットを活用するという選択肢を与えたことで、主体的な学びを展開することができた。またそれ以外にも、辞書のページをカメラで撮影し、シート上に直接貼り付けるなど、自分で学習の選択肢を増やす姿から、情報活用能力を高めるしかけになった。